

第6節 顕在化する地球温暖化への適応

1 地球温暖化の影響と適応策【環境政策課】

(1) 適応策の検討

平成26年10月、国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」は、デンマーク・コペンハーゲンにおいて、第5次統合報告書を承認しました。

この報告書によると、温暖化の原因が人間の活動である可能性が極めて高い（95%以上）とし、今後、有効な対策がとられなかった場合、今世紀末に地球の平均気温が最大4.8℃、海面水位は82cm上昇すると予測しています。

現実には、日本の平均気温も、1898～2014年の観測結果によると、100年当たり1.14℃の割合で上昇しており、本県においても、平均気温の上昇がみられます。

温暖化の影響は、様々な分野にわたり、暮らしと密接に関わります。報告書では、地球温暖化対策には、「緩和策」と「適応策」の両方の取組が必要であると述べています。温室効果ガスの排出量を削減することに加え、既に始まっている温暖化の影響に適応していくことが重要となります。

このため、平成27年11月に、地球温暖化による社会や経済への悪影響を抑えるための対策を定めた、国としては初の「気候変動の影響への適応計画」を閣議決定しました。この中で、今後10年間に国が取り組む7分野の対策を示しており、各自治体に対し、地域の特性を踏まえた計画の策定を促すこととしています。

また、平成27年12月にパリで開かれた「国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）」において、初めて途上国を含む全ての締約国が協調して地球温暖化対策に取り組む「パリ協定」が採択され、適応策についても対策を進めることとされています。

これらを受け、福井県においても、今後適応計画を策定し、本県の気候変動に関する将来予測の分析や県内影響への対策などを推進していきます。

分野	予測される影響	施策の例
農業・林業・水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>1等米比率の低下</li> <li>コメの病害虫の増加</li> <li>リンゴの着色不良</li> <li>マイワシなどの分布域北上と漁獲量の減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高温に強い品種の開発</li> <li>2019年を目途に被害軽減技術を開発</li> <li>着色の良い品種の導入</li> <li>栽培管理技術の開発（高地栽培）</li> <li>高精度な漁場予測</li> </ul>
水環境・水資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>渇水の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水や再生水を利用</li> </ul>
自然生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニホンジカの生息域拡大</li> <li>近海のスズメダイ消失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個体群を管理</li> <li>モニタリングと管理を推進</li> </ul>
自然災害・沿岸域	<ul style="list-style-type: none"> <li>洪水の増加</li> <li>高潮や高波被害の増加</li> <li>土砂災害の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>決壊までの時間を稼ぐ堤防の検討</li> <li>リスクの低い地域に居住を誘導</li> <li>港湾のハザードマップ作成</li> <li>土砂災害警戒区域の指定促進</li> </ul>
健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症患者の増加</li> <li>感染症媒介動物の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予防法の普及啓発</li> <li>デング熱を媒介する蚊の駆除</li> </ul>
産業・経済活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキー場の積雪減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特性を踏まえた適応計画作り</li> </ul>
国民生活・都市生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>短時間豪雨の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下の駅などの浸水対策を推進</li> </ul>

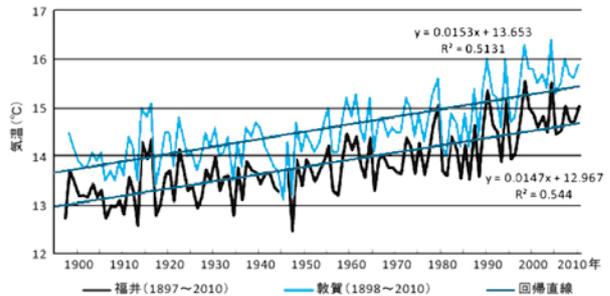
出典：「気候変動の影響への適応計画」（国）抜粋

図2-6-1 国の適応計画の分野別事例

(2) 福井県の現状例

①福井県の平均気温の推移 図2-6-2

本県においても、平均気温の上昇傾向が観測されています。

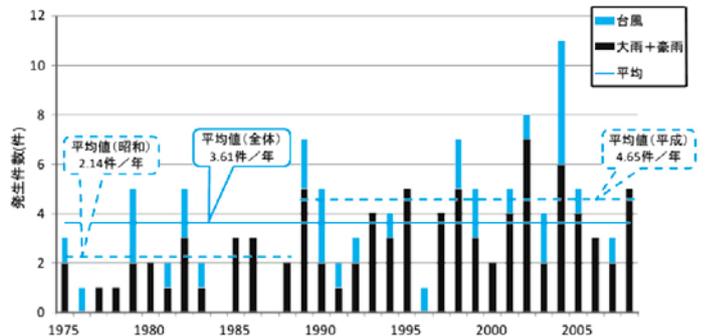


\* 福井は1948年1月に観測場所を移転したため、移転による影響を取り除いた「気候解析平均気温」を用いて、長期的な変化傾向を求めている。

出典：「福井県から見る地球温暖化」調査研究報告書（福井県衛生環境研究センター）

②風水害の発生件数の推移 図2-6-3

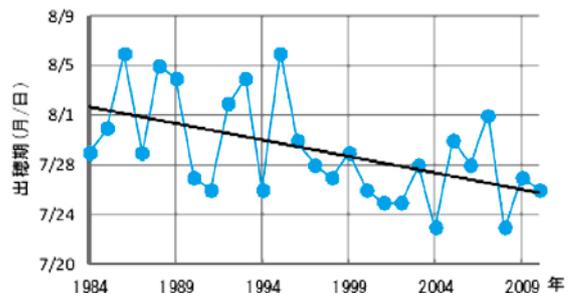
風水害の平均発生件数が、年々増加する傾向にあり、平成になってからの平均発生件数が約2倍になっています。（災害への影響例）



出典：「福井県から見る地球温暖化」調査研究報告書（福井県衛生環境研究センター）

③コシヒカリの出穂期の推移 図2-6-4

本県が発祥の地であるコシヒカリは、1990年代後半以降、出穂期が早くなる傾向があります。（産業への影響例）



出典：「福井県から見る地球温暖化」調査研究報告書（福井県衛生環境研究センター）

分野別施策の実施状況

地球温暖化対策の推進